

Håfa Adai

グアム日本人学校（全日制）学校日より
平成29（2017）年8月21日
校長 福澤 諭

2学期（授業日数86日）が始まりました

2学期が始まりました。校内には子ども達の元気な声が戻ってきました。

この夏休み、一人ひとりが学校ではできない貴重な体験をし充実した日々を過ごしたことと思います。2学期も、目標（夢）に向かって進んでいけるよう支援して参ります。

今年終戦から72年目を迎えました。このグアムの地でも、戦争によって多くの人の尊い命が失われています。そして、この時期各地で慰霊祭が催されています。日本では、8月6日に広島で、9日には長崎で平和記念式典が行われました。6日の広島で行われた式典の中で、こども代表（小学6年生）が「平和への誓い」を述べました。全文を紹介します。二度と起こしてはいけない「戦争」そして「平和」について、お家でも話し合う機会にさせていただければ幸いです。

□ 原子爆弾が投下される前の広島には、美しい自然がありました。大好きな人の優しい笑顔、温もりがありました。一緒に創るはずだった未来がありました。広島には、当たり前の日常があったのです。

昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分、広島の街は、焼け野原となりました。広島の街を失ったのです。多くの命、多くの夢を失ったのです。当時小学生だった語り部の方は、「亡くなった母と姉を見ても、涙が出なかった」と語ります。感情までも奪われた人がいたのです。大切なものを奪われ、心の中に深い傷を負った広島の人々。

しかし、今、広島は人々の笑顔が自然にあふれる街になりました。草や木であふれ、緑いっぱいの街になりました。平和都市として、世界中の人に関心をもたれる街となりました。あのまま、人々があきらめてしまっていたら、復興への強い思いや願いを捨てていたら、苦しい中、必死で生きてきた人々がいなければ、今の広島はありません。

平和を考える場所、広島。平和を誓う場所、広島。未来を考えるスタートの場所、広島。未来の人に、戦争の体験は不要です。

しかし、戦争の事実を正しく学ぶことは必要です。一人一人の命の重みを知ること、互いを認め合うこと、まっすぐ、世界の人々に届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていきます。

広島の子どもの私たちが勇気を出し、心と心をつなぐ架け橋を築いていきます。

平成29年（2017年）8月6日

こども代表 広島市立大芝小学校6年 竹舂直柔 広島市立中筋小学校6年 福永希実

【編入生】5名の編入があり歓迎式を行いました。よろしくお願ひします。

小学部2年 ウォーレス ウィリアムさん・山城青子さん 小学部4年 堀川裕太さん

小学部6年 山城辰太さん 中学部1年 堀川健太さん

※現地採用英語講師のジャシュア先生が一身上の都合で退職されました。

後任はパトラ ボールドウィン先生です。よろしくお願ひいたします。